

社内木鶏感想用紙

129 回目

2024 年 12 月 20 日

12 月号

名前

タイトル: 生き方のヒント

①感じたこと(仕事・人生にどう生かすか 等)

「真理は月の光のように満ち溢れている」この言葉の中の真理とは生き方のヒントと同じことだと書かれています。

夜、街中では明るすぎて月の光に気付くことが出来ませんが、山の中など周りが暗いところでは月が煌々と輝いている事に気付くことが出来ます。これと同じで生き方のヒントもバタバタと日々の出来事に追われて生活していると気づくことが出来ず、心落ち着かせてアンテナを張って自分からヒントを受取ろうとしなければ気付くことが出来ないのだと思います

自分の周りで起きている素晴らしい出来事、周りにおられる素晴らしい人たちの言動など冷静に見渡せばたくさんのたくさんの生き方のヒントが有ります、しっかりとキャッチして自分の物にしていきたいと思います。

この記事の最後は「あるべきようわ」に努めたいと締めくくられています。

私は会社の中では中間管理職です。自分の立場をしっかりと理解し、会社が発展できる様スタッフの皆さんが気持ちよく仕事ができるよう努めることが私にとっての「あるべきようわ」だと思いますので、もう少ししっかりとしなければいけないと反省する次第です。

②仲間の発表を聞いて気付いたこと

--

社内木鶏感想用紙

2024 年 12 月 20 日

12 月号

名前

タイトル: 稲森和夫に学んだ運命を高める生き方

①感じたこと(仕事・人生にどう生かすか 等)

太田さんが稲盛さんと共に過ごした30年で多くの学びがあったのだとこの文章を
読み知りました。多くの言葉を取り上げられていましたが私は中でも【神様は平等
なのだから自分にも絶対に明るい未来がある】【心が良くなると良い人間になる。
良い人間が集まればよい会社になれる】という言葉が心に残りました。
何事にも前向きにとらえてコツコツと取り組む姿勢、努力を続ければいつか必ず
花が開くという教えを大切に日々過ごしていかないといけないと感じました。
また、自分の事ばかりではなく利他の心を持って相手への思いやりを大事に
物事を考えていかないといけないと改めて感じました。
良い人間になれるように自分磨きをしていかないといけないと感じました。

②仲間の発表を聞いて気付いたこと

社内木鶏感想用紙

2024 年 12 月 20 日

12 月号

名前

タイトル: 稲盛和夫氏に学んだ運命を高める生き方

①感じたこと(仕事・人生にどう生かすか 等)

稲盛和夫さんの側近として30年間近くで共に行動された太田嘉仁さん。

この特集では、太田さんが稲盛さんから学んだ「生き方のヒント」について書かれており

ますが、その中で印象に残った言葉が2つあります。

1つ目は「世の中には偶然はなく、全てが必然であり意味がある」という言葉です。

生きていく上で、様々な経験をすることがあります。嬉しいことだけではなく、苦難や

受け入れがたい試練に直面することもあります。そんな苦難も偶然ではなく必然であり、

起こりうる全ての出来事は、自身が成長するために必要な経験だという考えを持ち、苦難を

乗り越えていかななくてはならないと感じました。

2つ目は、「人生・仕事の結果＝考え方×熱意×能力の原点」だという言葉です。

正しい考え方の基、「善きこと」を「熱意」を持って実践することが大切であり、そのことを

日々の生活で継続してやり続けることで能力に変わり、人生・仕事の結果として結び付く

のだと思います。人生、仕事の結果をよい方向に導くためにも、日々、努力を積み重ね謙虚

と感謝の気持ちを忘れず熱意を持って自身のやるべきことを全うしていかななくてはならないと

今回の致知を通じて改めて感じました。

②仲間の発表を聞いて気付いたこと
